

平成29年12月21日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日時	平成29年12月21日(木) 午後3時
場所	教育委員会室
開会	午後3時00分
閉会	午後3時59分
出席委員	
教 育 長	加 藤 裕 之
委 員	雁 部 隆 治
委 員	阿 部 博 道
委 員	坂 根 慶 子
委 員	淺 松 三 平
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	後 藤 隆 宏
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	岸 川 紀 子
学 務 課 長	須 藤 浩 司
すみだ教育研究所長	石 原 恵 美
指 導 室 長	横 山 圭 介
地域教育支援課長	岡 本 香 織
ひきふね図書館長	高 村 弘 晃

2 議題について

(1) 議決事項

上程事項なし

(2) 報告事項

第1 教育課題の進捗状況について

3 会議の概要について

教育長 それでは、教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は阿部委員にお願いします。本日は、報告事項1件を予定しております。

報告事項第1・・・資料P1～2

「教育課題の進捗状況について」、所管課長が資料のとおり説明する。

庶務課長（学校校舎等の改築・改修事業について説明）

教育長 ただいまの説明についてご質疑、ご意見はありますか。

阿部委員 吾孺第二中学校の工事終了予定は2月いっぱいですか。

庶務課長 履行期限は3月末ですが、3月4日（日）に同校の70周年行事がありますので、それまでにある程度の工事を終わらせるため、少しスケジュールを前倒して進めています。

阿部委員 仮に3月4日（日）までに工事が終わらなかったとしても、周年行事に差し障りのないよう進めているということですか。

庶務課長 はい。

指導室長（新学習指導要領への対応について説明）

教育長 ただいまの報告について、ご質疑、ご意見はありますか。

坂根委員 英語教育に関して、前から教育長もおっしゃっているのですが、小学校だから簡単に英語が教えられると思うのは少し問題があると思います。今までのような形でネイティブ中心にしているだけではなくて、独自にやっている学校もあるのですが、発音、アクセント、イントネーション、コンテキスト（文脈）、それから語彙、全部合わせて考えなければいけないのです。しかし、英語教育推進リーダーの研修に私も行きましたけれども、どういうふうに授業を進めるかということには割と熱心なのですが、そこら辺のところはまだです。少しその辺りについては、もう一度指導室がいろいろ指導していくというか、その授業をリーダーに任せきりにしないで、よく考えてやっていく必要があるのではないかと思います。それから、私はがん教育について、昨年、一昨年と学校へ参観に行っております。前の年度と比較もしたいので、いつやるかとかということを授業が終わってしまう前に教えていただきたい。今年度、全然これについて連絡が来ておりません。

指導室長 小学校の英語活動、外国語活動の授業では、確かにまだ小学校のNTを活用した授業以外の担当教員による英語について、今、坂根委員にご指摘いただいた部分で十分なスキルが教員の方にあるとは言えない状況です。また、英語教育推進リーダーについては、やはり外国語活動に望まれる授業法を中心に指導を行っているという現状ですが、教員の英語能力についてもある程度考えていかなければならないのではないかと考えています。ただ、教員免許の際に、やはり英語教育を想定した教員免許を持っていない者が小学校の段階ではまだまだ多いと思われるので、その部分を補うためには、個人の英語のスキルを上げるだけではなくて、補助的な教材、音声的な教材などの活用といったことも考えていく必要があると思っていますので、指導室のほうでも研修の内容について検討していきたいと考えています。それから、がん教育についてですが、昨年度は今後取り入れていくための試行段階であったため、トピック的な意味合いとして、どの学校で授業を行うか、情報提供させていただきましたが、今年度は全校で実施するということで、事前に日程を教育委員の皆様へお伝えするという形は取りませんでした。ただ、坂根委員からのご指摘を踏まえまして、この12月末段階での実施状況とこれからの実施予定について、担当指導主事の方で確認をしまして、必要な情報提供をしたいと思います。

浅松委員 3年次研修におけるカリキュラム・マネジメント研修ということで、新学習指導要領を視点に置いた作業形式の研修だと思われませんが、この研修を受けた感想や意見、あるいは室長からご覧になって感じられた研修生の反応や成果を教えてください。

指導室長 申し訳ありません。今回の3年次研修について私自身は研修現場を直接見ておりません。また、アンケートについても確認していませんので、後ほど確認したいと思います。ただ、このこ

とについて過日、校長先生方と話をする機会がありまして、その際に出た話では、若手教員の学校経営参画というところでは、やはり3年目までというのは、意欲はあるけれどもまだ自分のことで精いっぱいという傾向にあるため、どちらかといえば伝えるというよりは、指導するという段階である。ただ、やはり若手教員がこれからますます増えていく中で、本区においても3年次でもう学年主任を担わなければいけないといった小学校も実際にありますので、そういった現状を踏まえた上で、指導室のほうからも改めて研修等を取り入れていながら、各学校における意識向上を更に図っていく必要があると思っています。実際に、3年次になると個々のスキルにもかなり違いが出てきていまして、中には3年次になってもなかなか育っていかないという教員もいれば、逆に、3年次にも関わらず更にその先、その上を目指して、自ら考え積極的に活動している教員もいます。

浅松委員 若手3年目で担任を受け持つ、あるいはそのようなゆとりのない学校においては、小学校で1年目や2年目から担任を受け持つという例もあると思います。経営参画、運営参画、あるいは組織の中で自分の役割を持つというのは、やはり3年目の時期はとても重要だと思いますので、後で構わないので、研修の内容について教えてください。

雁部委員 英語教育に関して、先ほど坂根委員からもお話がありましたけれども、英語に限らず、最初の導入の段階で難しさを感じてしまうと、子どもたちはもうそれで拒否反応を示してしまいますから、その導入についてもう少し慎重に扱ってほしいと思います。

まず「英語は楽しい」と自然に興味を持てるような授業の入り方をしていかないと、後々の好き嫌いがはっきりと分かれてしまいます。その結果、好きになった子どもはどんどん勉強するけれども、嫌いになってしまった子どもはとことん勉強しないという状況にもなりかねません。ですから、その辺りについて、英語教育推進リーダーの方々にも重点を置いて考えていただきたいと思います。

指導室長 小学校の外国語活動、さらに今度は新学習指導要領において教科として外国語が5・6年生に導入される中で、やはり活動を通して、まず英語に慣れ親しむというところを最重要に考えています。ただ、教科として外国語になりますと、読むこと、書くことといった英語の文字に触れる内容が入ってきますし、文法面においても基本的な理解を図るようになっていきます。そういった中で最も重要視することは、導入段階において、まずは別の言語でコミュニケーションをするという楽しさを感じて十分に味わうということです。そのために、学校で指導していくにあたっては、例えば音声を中心とした小学校中学年段階の学習活動において、確かに坂根委員からご指摘のあったように、教員のほうから提供される音声は正しいもの、望ましいものである必要はあると思いますけれども、だからといって、子どもたちのアクセントやイントネーションを徹底して直していくといった形の指導にはならないと考えています。まず小学校の段階においては、とにかく音声で十分慣れ親しんだ上で、そういったことに触れていくということを目指していますので、音声CDやゲーム的なものをこれからも多く取り入れていくことを考えています。

坂根委員 誤解しないでいただきたいのですが、私は、音声を矯正する指導をとということを申し上げているわけではありません。ネイティブではありませんから、日本語式の音声になりがちでネイティブと同じようにはなりません。ただ、変な音声というか間違っているというか、そういうものに触れてしまうと、後になって矯正するのは非常に大変なのです。その辺だけは、特に低学年の指導には慎重になっていただきたいということです。これは、授業の楽しさというのとはまた別のものなので、その辺りをもう少し考えてほしいのです。また言語教育を教えるには、技術教育とか芸術教育と同じように資質というものがが必要です。ですから、それに向かない人というのはいますので、そうでしたらCDとかDVDでそのままの音声を聞かせるだけの方がよいと思います。言語教育専

門の先生からもそういうことは聞いています。とにかく最初が大切なのです。

教育長 ほかに何かございますか。

阿部委員 がん教育というものがよく分からないのですが、具体的に小学校6年と中学校3年にどのようなことを教えているのですか。

指導室長 病気の予防ということで、生活習慣と病気の関連、あるいは喫煙とか飲酒とかといった嗜好品と病気との関連について、それから、がんの怖さを教えるというよりは、がんは防げる病気であって、こうすると健康的な生活が送れるし、それが望ましいというところを教育内容の一つとして入れています。がんをただ恐れるのではなく、予防するというところから、がんというものを能動的に理解し、望ましい健康的な生活をしていこうというところを中心に教えています。

庶務課長 以前、私は保健計画課で、このがん教育に関わっていましたので、少し補足させていただきます。がん教育の一番の目的というのは、今、指導室長から説明がありましたように、がんの正しい知識を持つということです。現在、日本人の2分の1ががんに罹患し、3分の1ががんにより死亡すると言われていています。このように身近な病となっているがんに対する正しい知識を持つこと、また、その予防を含めた早期発見が重要であるということ、その教育課程に応じた適切な時期に指導するというところで、2時間の授業を構成しています。まず、1時間目では、養護の先生と担任と一緒にがんについて正しい知識を持ち、そして2時間目では、がん経験者による体験談を聞いたり、DVDを見たりして、がんを経験した方の気持ちを理解します。さらに、もう一つの目的として、家に帰ってから保護者と一緒にがんについて話をしてもらおうということです。墨田区は比較的、がんによる死亡率が高いということもありますので、そのような目的を持ってがん教育を進めているところです。

阿部委員 地元の医師会の先生といった方からの協力は得られているのですか。

坂根委員 よろしいですか。先ほど、指導室長が言われたのは保健体育の分野のことで、がん教育には2つありまして、昨年も授業がありましたけれども、がんと緩和ケアについても関わってきます。もしそうなった場合に、どういうふうに終末期医療に関わってくるかといった分野のところに、小学生と中学生がどういう段階で関わってくるか、というのは今年からは入っていないのですが、確か、昨年までは医師の川越先生の関係の方がいらっしゃいました。

庶務課長 確かに坂根委員がおっしゃるように、緩和ケアについても非常に重要な視点ですので、そういったことについても当然取り入れるというところがあります。学校によっては、緩和ケアについてより具体的に話を聞くというものもあるのですが、基本的には同じ形式によるもので、がんについて正しい知識を持つという目的があります。そのために、墨田区では、がん教育パッケージというものを、教員、医師会の先生、それから先ほど坂根委員がおっしゃった川越先生のような緩和ケアに携わっておられる関係者の方々で作りました。授業ではそのパッケージを使いながら、がんに対する正しい知識をきちんと学んでもらいます。一方、他の自治体では比較的、出前授業といった形式で、がん経験者の方を呼んで体験談を話してもらおうといったことが多いようですが、墨田区の場合は、がんに対する正しい知識をまず先生自らが学び、そしてそれを子どもたちへしっかりと教えることができるようなパッケージを作ったという点が大きな特徴となっています。

坂根委員 昨年の授業はそれですね。川越先生と、それから墨東病院の看護師の方々、全部で7、8人いらして、そしてがん経験者の方、この方は治癒した方なのですがゲストティーチャーとしてお招きして小学校でいろいろ話を聞きました。それから中学校では、もし友達がそうなったらどうするかといった、そういう心にどのように向き合っていくかということ、保健体育の授業では

なくて、そういうところまで踏み込んだ授業を学年、発達段階に応じてしているのですが、昨年と比べて今年はどうしたのかということ、私は知りたいということを申し上げました。先ほど日本人の2人に1人ががんになると説明がありましたが、それはそうなのですけれども、85歳以上の場合という条件があるのです。一般に85歳以上というのは、そのまま、あるいはそういう検査をしないでそれが大きな病気とならないで生を終えるというような場合もあるので、それをどうふうに考えるか。何となく2人に1人が流布してしまっているような状況というものも理解する必要があります。これについて現場の看護師さんたちはよく分かっています。以上、私の知っていることを申し上げました。

教育長 阿部委員、先ほどお尋ねになったことについてはよろしいですか。

阿部委員 結構です。

すみだ教育研究所長（学力向上新3か年計画の実施について説明）

教育長 ただいまの報告について、ご質疑、ご意見はありますか。

浅松委員 東京未来大学との共同研究は、3年目ですか。

すみだ教育研究所統括指導主事 東京未来大学との共同研究は今年度が3年目です。

浅松委員 どうですか、今3年という区切りということで、学びの意欲というところに視点を当てた研究をされてきた、それなりの成果は上がっているのでしょうか。

すみだ教育研究所統括指導主事 学習意欲の向上について、昨年度2年目までに行ったことは、子どもたちが自ら学びたいと思えるようにするための内発的動機付けについて、どういったところに影響があるのかという研究です。その結果、いわゆる自分は勉強ができるとか、自分には能力があるとか、そう思えるような自己効力感、あるいは自分で決めて勉強しているのだという自己決定感、あるいはほかの人から受け入れられているというような他者受容感、こういったところに影響があるということが分かりましたので、それを尺度という形でまとめています。そこで今年度は、子どもたちの学習意欲を向上させるためには具体的にどのようなアプローチをしていくことが大切なのかということについて、現在、小・中学校各1校において、様々な取組をしている中で効果的な方法といったものを模索していますので、これを来年度に向けては、各学校に周知を図りながら進めていくということを考えています。

浅松委員 そういう意味では事業は順調に進んでいて、研究の目的もある程度達成しつつあるということでしょうか。

すみだ教育研究所長 はい、来年度からは具体的な対応を全校で展開していくことを予定しています、順調に進んでおります。

浅松委員 わかりました。

坂根委員 小、中1校ずつというのは、どこですか。

すみだ教育研究所長 柳島小学校と、吾嬭立花中学校です。

坂根委員 先ごろ、中和小学校で角山先生がお話しになったこととは、また別なのですか。

すみだ教育研究所統括指導主事 東京未来大学の小林准教授の方で「教えて考えさせる」という形で授業を進めていくといった方法による学習意欲の向上が、昨年度までの研究で分かったということで、その実績研究を中和小学校でやっています、この取組をほかの学校でも3年目の今、具体的にアプローチをしています。昨年度までの2年間の研究に協力いただいたのが中和小学校です。

坂根委員 わかりました。

すみだ教育研究所長（幼保小中一貫教育推進計画の改定について説明）

教育長 ただいまの説明についてご質疑、ご意見はありますか。

雁部委員 まだ改定の内容はまとまっていないと思うのですが、大体の大筋で構わないので、どのような改定を行うのか教えてください。

すみだ教育研究所長 これまでの5年間の積み残しの課題、それから社会情勢により変化していく教育課程、そういった動きの中で出てくる新たな課題、それらに対応する内容を丸々盛り込むということと、この5年間で各ブロックが行ってきた効果的な取組について、全区に展開していくといった内容になっています。

教育長 現在は、どういう状況ですか。

すみだ教育研究所統括指導主事 現在は、まだ改定の形態や、次の計画に向けた最後の調整をしているところです。ただ、ここで考えていかなければならないのは、やはり教科による連携を進めていくということであると考えています。単に教科による連携ということでは、それぞれの立場でどうしたらよいのか、特に幼児期の部分については難しい課題が考えられますので、その辺りについて今回の計画策定によってどういったことができるのか、ということ調整しているところです。よって、詳しいことがまとまりましたら、その段階でまたお示しさせていただきたいと思います。

その他１・・・資料P3

「12月8日、12日に錦糸中学校で行われた、海外派遣先で交流したオーストラリアのジョン・エドモンソン校との交流授業の報告について」、指導室長から資料のとおり説明する。

教育長 ただいまの説明についてご質疑、ご意見はありますか。

浅松委員 この交流授業ですが、ICT機器に関するものは指導室の授業として、特に公開授業としていたわけではないのですね。

指導室長 はい、今回は実験授業です。

浅松委員 実験授業なので公開していない、といえども見たかったです。と言いますのは、ICT公開授業のときに、ある小学校でアイヌの資料館とテレビ電話を使って音声のやり取りをしているのを見たのですが、子どもたちのものすごい反響がありました。これはおそらく業者がある意味、営業目的で試験的に実現されたことだとは思いますが、確かにこれを準備するに当たっては多額の費用もかかりますし、いろいろな企業の手も借りないといけないという話も伺っていました。今日、交流授業があったと報告を聞いて、中学生の海外派遣に際しては、私たちが開会式や報告会にも出席して話を聞きましたので、このような機会が設けられるのであれば、たとえ非公開であったとしても、教育委員という立場でぜひ見ることができればよかったです。また、この海外派遣に引率した女性の英語教員は有名な方ですし、区中研の授業も見させていただいたものですから、ぜひ今度ご紹介いただきたいと思います。今回は指導室内部の実験授業だということでは理解はしましたが、少し残念に思いました。

指導室長 今回、この実験授業を試みるにあたっては、おそらく様々な課題が生じるであろうと思っていましたので、事前に公開のご案内等はしませんでした。これについて、指導室の方で学校と連携して進めてきたのですが、やはりICT機器を各学校に配置したということは、つまりできる環境を整えられたということで成果として大きかったですし、また現地との交流に際しては、庶務課教育情報担当の協力も得ながら実現いたしました。

阿部委員 1点質問したいのですが、現地校とはどのようなつながりでそういった協力が得られたのでしょうか。

指導室長 海外派遣に際しては、当然ながら委託業者が間に入っていますので、いろいろとコーディネートをしてもらいました。また、現地に10日間滞在しましたので、その間に引率した高田という教員と現地校の教員との間でも、コミュニケーションを取ることができるようになりましたし、今回の交流授業を実施するにあたっては、お互いにかなりやりとりをしてもらい、実現する運びとなりました。

阿部委員 今後は、このような教員のつながりで、同じような取組が継続されるということでしょうか。

指導室長 細かいやりとりは教員同士で行いましたが、正式にこういう形でやらせてほしいというのは、教育委員会の組織として最初に申し入れています。

阿部委員 相手方はどのような組織なのですか。

指導室長 あちらは学校です。

坂根委員 今のお話に一言申し上げますが、阿部委員は、この話の前に最初のジョン・エドモンソン校とのつながりということをおっしゃったのです。それは業者がそのような学校を想定したということですか。

指導室長 今回の交流先を選定したお話ということでしょうか。

次長 よろしいでしょうか。まず、ホームステイを選定する際に、業者が仲介しています。最初にこの学校を決めるにあたっては、業者が間に入り交渉して決めました。その後、実際に教員も現地に出向いて会っているので、今回の授業をコーディネートするにあたり、具体的な細かいところは直接現地の先生がやったということになります。

坂根委員 その話が今、混乱しているようだったのではと申し上げました。そういう意味ですね。

阿部委員 今後、そういう協力が1回だけで終わってしまうということではなくて、継続してほしいことで、逆に言えば、向かうからこちらに派遣するということも将来的にはあり得るということですね。

次長 できれば今後は、学生同士で交流し、将来的には相互の留学交流やその地区の自治体間同士で地域交流といったことに発展できればよいと思っていますので、固定した相手と何回も交流を重ねていきながら更に広げていくといった方向に持っていければと思っています。

その他2

坂根委員 12月14日に第三寺島幼稚園の研究発表がありまして、区内の幼稚園の園長先生、それから副園長先生、かなりいろいろな方がいらして、指導なさった松本先生のお話が大変良く、皆さん喜んでいらっしゃいました。私もアクティブラーニングに関して、幼稚園から小学校、中学校と続けての関係があるというようなこともお話しいたしました。ただ1点、単学級ですので、どうしてもほかのクラスを見るということができません。これは墨田区の課題でもあります。私は、全部の幼稚園を知っているわけではありませんが、まだ区内の研究発表なら見る機会があります。教員がほかに行くのは非常に難しいというような話があったので、できればそういう機会を教員に設けてほしいと思います。

指導室長 区内の研究活動につきましては、当然午後に参加ができるように設定しています。ただ、区外となりますと、やはり午後ということにはなるのですが、移動時間等も含めてなかなか難しいところがあります。ただ、そういう形の要望もあると思いますので、園長会ともどのような形で設定をすれば、そういうことが可能になるのかということと相談していきたいと思っています。

その他3

坂根委員 今年は周年行事が多くありました。12月9日は立花吾孀の森小学校10周年で大変良い式でした。皆さんもそれぞれご意見がおありになると思いますが、周年を行う学校ごとに非常に特色があって、児童・生徒の発表、音楽とか、それから絵画とか、本当に素晴らしく感銘を受けました。やり方も学校ごとに児童がそのままの手書きのもので記念誌にメッセージを載せたところもありますし、いろいろ工夫していたと思います。ただ1点、残念なことに、私がいろいろ見ましたところ、記念誌などの印刷物に印字ミスなどがありました。その中で分かったことは、歴史の部分の誤りが非常に多かったということです。学校によってはミスが10か所以上あるところもあり、直しているところもあるし、ほとんど直していないところもある。なぜこのようなことを私が申し上げるかという、私はこれを見て、墨田区の教育の歴史を見ていて分かりやすく役に立ったのに、あまりにもミスが多くて残念に思ったからです。そして、こういうところが違っていますと学校へ申し上げたところ、ある副校長先生は大変恐縮されて、前の資料を見直す機会にしたいということをおっしゃっていました。それから、取り上げた内容に関してはそれぞれ書き方の特徴がありました。例えば校舎が建った、改修したところはみんな書いてありますが、エアコンが全部付いたとか、ICT機器が完備したとかというのは、書いてある学校と書いていない学校と非常に差があるのです。そうかと思えば突然区条例が書いてあったり、ノーベル賞を受賞した学者名が書いてあったりする。何でそういうことが書いてあるのかと思ったのですが、部分ごとにいろいろな人が編集したからではないでしょうか。少なくとも区で設置した設備のことについて、エアコンとか、それからICT機器とか、完全給食とか、そういうことは必ず書いてほしいというのが私の意見です。以上です。

庶務課長 まず、周年行事が今年は本当にたくさんありまして、教育委員の皆様方にはご出席いただき誠にありがとうございました。確かに今後に向けてきちんと改善しなくてはいけない部分もあると思います。また、ご意見をいただいた学校史の部分についても、おっしゃられたようにエアコンであるとか、ICT機器であるとか、そういった部分について、統一的に記載ができるかどうか、もう少し学校と協議してきちんと事務局としてもこういう形が望ましいというひな型のようなものを多少示すことができればと思います。

指導室長 周年行事の記念誌については、予算の範囲内で結構カラー写真なども使っていて、そのため印刷費も掛かりますし、決められたページ数の設定もあります。レイアウトの仕方によっては、沿革史に割けるスペースというのがどうしても限られてしまいます。そうすると学校によっては様々な形で、そのページ数の中で何を削って、何を入れていくかというところの工夫はせざるを得ないのかなと思いますので、現段階ではなかなか統一が図れないとは思いますが、ただ、区として、ぜひこういうものは入れてほしいということを要望していくことはできると思いますので、今後少し検討させていただきたいと思います。

坂根委員 先ほど指摘したことの説明ですが、ノーベル賞のことをいろいろ書いてあるけれども、ICT機器のことは書いてない。ノーベル賞というのは別にこの会誌とは直接に関係がありません。ですから、スペースの問題ではなくて、それをどういうふうを選ぶかという問題だと思います。それから印字ミスなどに関しては、これとは違います。

庶務課長 せっかくいただいたご意見ですので、こういうご意見が教育委員会からあったということをお知らせしながら、また来年度以降も周年行事がありますので、学校史の編集について、伝え

るべきところはきちんと伝えるようにしていきたいと思います。

坂根委員 私の意見としては、こういうふうにしてくださいとか強制的に何をしてほしいという気持ちはないのですが、とにかくバランスが良くないものがあります。あるものに関しては入っているけれども、あるものに関しては全然入ってないというような感じです。それはスペースの問題とはまた別の編集の問題だと思います。

教育長 また来年度以降も同じ問題が出てくると思いますので、ある程度入れるものなどについて、共通化を図っていった方がよいと思いますので、そのように計らっていただきたいと思います。坂根委員、これでよろしいでしょうか。

坂根委員 墨田区教育史を考える上で大変役に立っているものだと思いますので、よろしくお願いいたします。

その他4

浅松委員 学校ICT化推進公開授業を12月16日に吾嬭立花中学校で見えたのですが、今後の課題ということで申し上げたいと思います。今年、去年と続けて、できる限りの中で幾つか授業を見てきたのですが、この日は数学の少人数授業を2時間見ました。その中で1年生の数学の授業を見たのですが、教え方が素晴らしいと思いました。その授業は、ICTということでタブレット端末にアプリを入れて、それを生徒に示しながら説明をしていくもので、そのときは反比例について、同じ面積を教科書では方眼で縦と横、長方形のサイズを変えても面積が一緒であるということに対して、ICTではアプリを使ってそれを実際に動かしながら見せていきます。縦長にしたり、正方形にしたり、長方形にしたりと。このような中で、その授業が大変面白かったのは、その図形の変化を実際の生活場面に置き換えて説明をしていたことです。例えば缶ジュースに置き換え、あるいはツナ缶に置き換えてみたときには、容積は同じだけれども横に伸ばすと何でこうなるのか、それは食べやすいからだ、引っ張り出しやすいからだと説明するのです。そもそも数学というものは、実際の生活場面に置き換えた話を交えながら考えさせると分かりやすいもので、それを上手くアプリを取り入れながら説明しており、50分の授業に生徒は飽くことなく、いつの間にか授業に引き込まれています。そして最後はきちんとまとめとして教科書を出させて、立体化から平面へといった方眼の中での作業をさせていました。このように教科によって、先生自身で開発されたり、あるいはアプリを引っ張ってきたりと、かなり先生方の工夫があると思います。2年、3年とやってきて、熱心な先生は特にいろいろなスキルを習得されていると思います。このように先生方が自己研鑽しそれを財産として授業で実証して、更に発展させていく、そういうものが区中研や区小研で可能な限り広まっていけば理想的ですし、さらに公立の小中学校の中で共有されてもっと広がることができれば、より学力向上へつながっていくと思います。同じく若手の教員も、そういうものに触発されている工夫されていたのを見まして、2年目に来て今ICT公開授業を終えまして、庶務課教育情報担当と指導室、すみだ教育研究所が手を組みながら、教育長も以前おっしゃっていたICT化による教材開発という中で、単に個人の財産に留め置くのではなくて、可能な限り広く授業の改善につながるようなことを考えていくことができればよいのではないかと思います。以上です。

指導室長 今後、可能な限りそのようなコンテンツの共有化を図っていきたいということで、例えば体育指導においては、モデル的な映像教材を共通で使っていくという方向で、今はそれを蓄積しているところです。特殊なアプリケーションを使った場合、その教員はそれにとっても精通している

けれども、ほかの教員はその使い方や操作自体がよく分からないといった事例も実際にありますので、全ての教員に提供できるかというところではなかなか難しいところもあります。映像教材は再生さえできれば、比較的どの学校でも同じように使えるのですが、ソフトの特性を活用していくというところでは課題がありますので、それに詳しい教員が工夫して作ったものや情報を活用しながら、もっと平易に使えるような形にしていきたいと考えています。

庶務課長 今、浅松委員からお話しいただいたソフトは、公開されているものですのでいろいろな教員が活用できるものです。例えば、NHK関連のホームページに「NHK for School」というものがありまして、ここでは無料の公開動画などのコンテンツが用意されていて、その中では小3から小6までの理科教材が入っているなど、簡易に使えるものもあります。現在、事務局ではこういった教材を庶務課教育情報担当、指導室、すみだ教育研究所で協力しながら蓄積しているところです。

浅松委員 このような良いソフトを取り入れた授業の組立てが非常に上手にできていて、また、その部分の活用を授業の一つの時間としているので、流れがよかったです。

庶務課長 確かにおっしゃるとおり流れも大事なことです。ありがとうございます。

教育長 ICTの活用について、今、浅松委員が言われたことは確かにそのとおりだと思います。ただ、一つ注意しなければならないのは、ICTだけで教員自らの説明がないということです。つまり、それを使いさえすればその時間は済んでしまうということに考えに陥ることは一番の問題です。ICTと言ったときに、今の墨田区では各学校の教員になるべく使ってもらえるようにということが前提だったのですが、これからはICTを入れた授業のあり方について考えていく必要があります。指導室が主導となって例えば活用方法についての研修をするなどしていかないと、先ほど、指導室長が言ったように、単に映像教材を流すだけで終わってしまうといったこともでてしまう恐れがあります。導入に当たっては、とにかく最初の入口が一番重要なので、その辺に重点を置きながらやっていきたいと思っています。さしあたって、現在、すみだ教育研究所が中心となって取り組んでいまして、例えば理科指導のポイント説明に動画を入れたものなどを作り、共有フォルダに格納して教員が自由に活用できるようにしているなど、そうしたものと合わせながら、指導室からも学校へきちんと指導していきたいと思っています。

その他5

阿部委員 先ほど、すみだ教育研究所からも報告があった東京未来大学との共同研究ということで、私も坂根委員と一緒に中和小学校の研究発表会に行きました。ここでは「教えて考えさせる」というテーマで、授業を「知ろう」「確かめよう」「チャレンジしよう」「振り返ろう」の4つに分けて、マグネットのマークのようなものを黒板に貼って、「さあ、これからみんなで知ろうね」と言うところから始まります。たまたま私はグラフの授業のところを見学したのですが、次に進むときに「さあ、ここからチャレンジだよ」と言って、これからやろうと考えていることを、子どもたちにも同じように示しながら、一緒に考えさせるといったやり方です。東京未来大学の小林准教授が実践的に研究されている内容をここで実際にやられたのですが、子どもたちが上手に先生の進め方に引っ張られていき、わいわいがやがや言いながら結構楽しくやっていました。非常にめりめりがありまして、子どもたちも飽きることなく、ときには先生にいろいろと意見を言ったりしていて、大変良い研究発表でした。そのあとに、角山先生からモチベーションについての話や動機付けの話がありまして、自己肯定感を植え付けるには褒めることに加え、子どもたちが自分からその面白さ

に気付くといったところから入ると非常に高まるといったニュアンスのお話を聞きました。工夫次第によって、授業も面白くなるということがわかりましたので、良い研究が進められ、大変成果が上がっているという認識を持ちました。

教育長 では、これで教育委員会を閉会します。